

南丹保健所管内の感染症発生動向調査による週報 (急性呼吸器感染症定点、小児科定点、眼科定点、全数報告)

第47週 2025年11月17日 ~ 2025年11月23日

今週のコメント

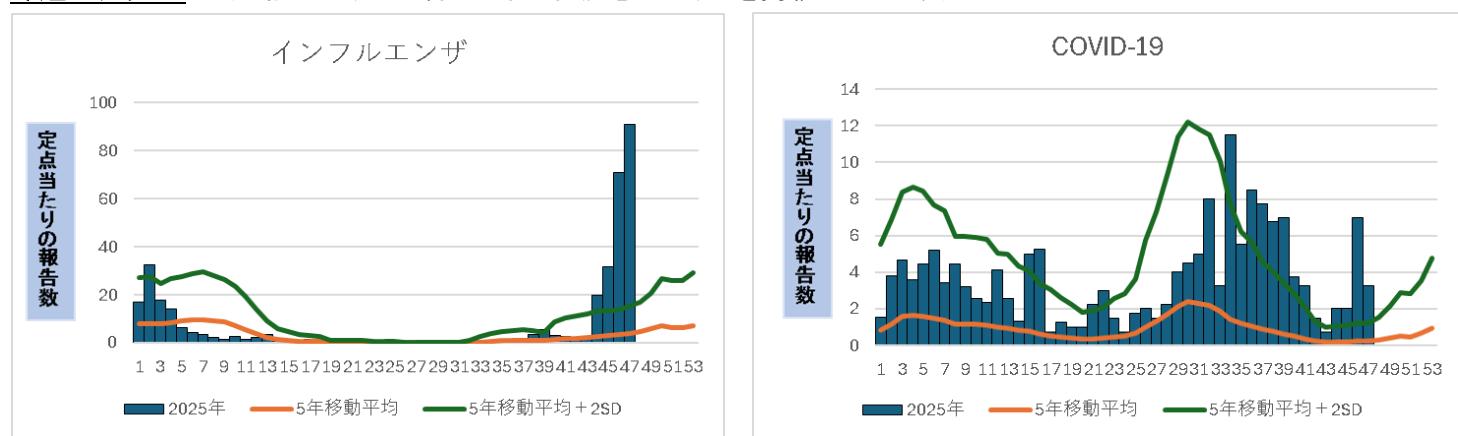
南丹保健所管内では、インフルエンザが警報レベル継続中です。

全国・京都府全体(京都市以外)でも、インフルエンザが警報レベル継続中です。

2025年第47週の報告です。

- インフルエンザの定点当たりの報告数は南丹 91.00(前週 71.00)、京都府 55.88(前週 41.55)となっています。
- 新型コロナウイルス感染症の定点当たりの報告数は南丹 3.25(前週 7.00)、京都府 1.63(前週 2.60)となっています。
- 感染性胃腸炎の定点あたりの報告数は南丹 2.00(前週 0.00)、京都府 3.55(前週 2.70)となっています。

今週のグラフ (下記のグラフは管内上位2位疾患のグラフを掲載しています)



※横軸は週数 縦軸は定点あたりの報告数を示しています

1 『5年移動平均』は、過去5年間の平均値の変化を表しています。

2 『5年移動平均+2SD』は、過去5年間のデータのばらつきを考慮した上限を示しており、データの約95%がこの線より下に収まるとされる基準です。

南丹保健所管内、京都府全体でインフルエンザが警報レベル継続中です！

インフルエンザは例年、秋から冬に流行が始まり、冬にピークを迎え春ごろに終息する流れを繰り返しています。

今年(2025年)は、京都府全体で第36週(9月1日～7日)に流行入りし、第44週(10月27日～11月2日)に注意報基準を超えた、第46週(11月10日～16日)に定点あたり報告数が41.55となり、警報の基準である定点あたり報告数30を超えるました。

南丹保健所管内では、第44週(10月27日～11月2日)に注意報レベルになり、第45週(11月3日～9日)に府内で最も早く警報レベルになりました。第47週(11月17日～23日)は定点あたり報告数91.0で前週よりも報告数が増加しています。

冬場にかけてさらに感染が流行する恐れがあります。

帰宅後、調理前後、食事前の手洗いを行うとともに、
規則正しい生活で免疫力を高める、こまめに換気をする、
早めに予防接種を受けるなどインフルエンザの予防に
努めましょう。

また、年末年始は医療機関の閉診により、受診しにくい状況が想定されます。早めに常備薬等を準備しましょう。

京都府のインフルエンザ情報については、

[こちら\(京都府感染症情報センター\)をご確認ください。](#)



各定点把握疾患 発生状況(南丹管内)

	警報レベル		注意報	R7.47w		前週定点 (参考)
	開始	終息		定点当たり 報告数	前週比	
インフルエンザ*	30	10	10(流行1)	91.00	↗	71.00
新型コロナウイルス感染症				3.25	↘	7.00
RSウイルス感染症				1.00	↗	0.50
咽頭結膜熱	3	1		0.50	↗	0.00
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4		1.50	↗	1.00
感染性胃腸炎	20	12		2.00	↗	0.00
水痘	2	1	1	1.00	↗	0.00
手足口病	5	2		0.00	→	0.00
伝染性紅斑	2	1		0.00	↘	0.50
突発性発しん				0.00	→	0.00
ヘルパンギーナ	6	2		0.00	→	0.00
流行性耳下腺炎	6	2	3	0.00	→	0.00
急性出血性結膜炎	1	0.1		0.00	→	0.00
流行性角結膜炎	8	4		0.00	→	0.00

急性呼吸器感染症(ARI)について

急性呼吸器感染症(ARI)とは、急性の上気道炎(鼻炎、副鼻腔炎、中耳炎、咽頭炎、喉頭炎)又は下気道炎(気管支炎、細気管支炎、肺炎)を指す病原体による症候群の総称です。インフルエンザ、新型コロナウイルス、RSウイルス、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナなどが含まれます。

南丹保健所管内第47週報告数は498件(定点当たりの報告数:124.5)でした。[京都府の情報はこちら](#)



最新情報は下記のリンク先でご確認ください(関連リンク)

[・京都府感染症情報センター](#)

更新時期:(原則)毎週木曜日14時 前週分の状況を更新

[・感染症の情報\(国立感染症研究所\)](#)